

第4回総合戦略策定検討委員会

議事要旨（案）

日時：令和3年3月22日（月）
午後6時30分～8時00分
会場：市民ホール

次 第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議題
 - ①令和元年度総合戦略の基本目標における数値目標の達成度について
 - ②令和元年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価について
- 4 その他
 - ①第5回昭島市総合戦略策定検討委員会について
- 5 閉会

配付資料

【配付資料】

- 1 資料1 総合戦略の基本目標における数値目標の達成度
- 2 資料2 総合戦略における具体的な施策の進捗状況一覧

出席者（敬称略）

委員長・・・松本祐一（多摩大学総合研究所）
副委員長・・・大塚一彦（立川公共職業安定所）
委員・・・水野宏一（昭島市商工会）、勝見真之（連合多摩中央地区協議会）、北原裕貴（多摩信用金庫）、齋藤久未（株式会社ジェイコム東京 多摩局）、樽松洋（公募市民）、石川くに子（公募市民）、佐藤良絵（公募市民）
事務局・・・萩原政策担当部長、青柳企画政策課長、滝瀬総合基本計画担当課長、森田企画調整担当係長、萩原企画調整担当係長

1 開会

事務局・・・ 皆さん、こんばんは。本日は、年度末の大変お忙しいところ、第4回総合戦略策定検討委員会にお集りいただきありがとうございます。本来であれば、1月に第4回を開催する予定でしたが、1月に入り緊急事態宣言が発令されるなど、コロナ関係の状況の終息が見通せない中で、延期をさせていただいた次第です。昨日を持って緊急事態宣言が解除されているところではありますが、まだまだ予断を許さない状況が続いていることから、市としても感染拡大防止に努めつつ、会を開催したいと考えております。皆様におかれましては、大変お忙しいところお越しいただいたところではありますが、会の開催につきまして、なるべく効率的に進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、定刻になりましたので委員長よりよろしくお願いいたします。

2 委員長あいさつ

委員長・・・ 皆さん、こんばんは。お忙しい中、まだまだ落ち着かない中、委員会にご出席いただきまして、ありがとうございます。只今より、第4回総合戦略策定検討委員会を開催いたします。今のご挨拶にもあったとおり、昨日に緊急事態宣言が解除されたわけですが、まだまだ予断を許さない状況が続いております。コロナに対応して、皆さん色々なやり方ができて、特にオンラインとかはかなり進んできたと思いますし、打合せをオンラインでやりましょうというのが当たり前になってきていますが、逆に、リアルに集まってやることの良さが際立ってきたかなという部分もありまして、こうやって皆さんで会って議論ができるということは素晴らしいなと思います。先程もありましたが、なるべく効率的に進めて行きたいと思いますが、今日も忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。なお、本日は富名委員より欠席の連絡をいただいております。

では、事務局より本日の資料についての説明をお願いします。

事務局・・・ 本日使用する資料につきましては、机上配付しております、本日の次第と、事前に送付をさせていただきました、令和元年度総合戦略の基本目標における数値目標の達成度と書かれている資料1と、総合戦略の具体的な施策数値目標等一覧と書かれている資料2になりますが、今回、資料1につきましては、一部最新データを反映できた部分がございますので、机上配付した資料1に差し替えをお願いいたします。

また、第3回委員会の議事要旨（案）につきましては、委員の皆様には事前に送付させていただいております。ご覧いただいているかと思いますが、何かお気付きの点があれば、お申し付けいただければと思います。

委員長・・・ 資料についてはよろしいでしょうか。また、前回の議事要旨（案）についてはいかがでしょうか。特になければ、こちらを議事要旨とさせていただきます。

3 議題

（1）令和元年度総合戦略の基本目標における数値目標の達成度について

委員長・・・ それでは、本日の議題に入りたいと思いますが、前回の内容を思い出していただきたいと思いますが、前回はどちらかというと、次の総合戦略の方向性みたいなものを皆さんと議論したと思うのですが、今日は前回の内容は置いておきまして、令和元年度の目標の達成状況とか、施策の進捗状況などを見ていただき、ご意見、評価をしていきたいと考えております。

それでは、議題の（1）令和元年度総合戦略の基本目標における数値目標の達成度について、事務局より説明をお願いします。

事務局・・・ それでは、令和元年度総合戦略の基本目標における数値目標の達成度について説明をさせていただきます。資料につきましては、A4の資料1「総合戦略の基本目標における数値目標の達成度」、1ページ目よりご確認ください。

まず、基本目標1「安定した雇用を創出する」についてですが、数値目標は「市内居住者の市内就業者数の増加を目指す」となっております。

こちらについては、国勢調査の結果をもとに目標を設定しており、国勢調査の最新データが 27 年度となっているため、昨年度示した数値から動きはありません。割合としては、四捨五入の関係から全体で 35.1%と変わりはありませんが、人数は 832 人の減少となっております。

2 ページ目については、多角的に検討できるよう、従業上の地位 正規職員なのか非正規職員なのか等の指標を示していますが、こちらも同様に数値の動きはありません。

3 ページには、参考として、有効求人倍率について全国と東京都を示していますが、右肩上がりでも推移していて就職を希望する人にとっては、いい傾向であるとの見方と、一方では、生産年齢人口の減少に伴い人材が不足しているとの課題も見えてくると分析しています。

次に、4 ページの基本目標 2.「昭島へ新しいひとの流れをつくる」についてです。数値目標は「市民意識調査における住み続けたい市民の割合の増加を目指す」について、過去 5 年間の市民意識調査の結果について記載しています。真ん中部分、平成 23 年度時点では「今後とも住み続けたい」「どちらかという住み続けたい」の合計は、83.5%でありました。平成 25 年度では、84.8%、平成 27 年度では、若干下がって 81%、平成 29 年度では 82.4%と、再び上昇しましたが、令和元年度では、若干下がって 81.8%となっています。数字では、上昇と下降を繰り返している傾向にあるが、引き続き 80%台を維持できるよう、取組を続けてまいります。また、基本目標 2 においては、もう一つ「市への来訪者数の増加を目指す」という数値目標がございます。平成 29 年 4 月から 8 月と平成 31 年 4 月から 8 月の比較になります。平日の滞在人口、休日の滞在人口、出典もとは N T T ドコモモバイル空間統計からの数値を使っています。滞在率は、平日休日とも同期間を比べ微減しています。G P S 機能を活用した数値となるため、検証が必要と考えるところですが、数値結果を真摯に受け止め、今後人を呼び込める魅力ある街づくりを進める必要があると考えております。

次に、5 ページの基本目標 3.「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」についてです。数値目標は、「婚姻数の増加を目指す」、「出生数の増加を目指す」、「多子世帯数の増加を目指す」、「保育所入所待機児童数の解消を目指す」、「学童クラブ入所待機児童数の解消を目指す」の五つを掲げています。

はじめに、「婚姻数の増加を目指す」についてですが、婚姻数は 1,020 人で前年度と比べ 102 人の増加となっています。

次に「出生数の増加を目指す」については、出生届出数は 75 名減少し、在住出生数は 37 人の減少となっています。

次に、「多子世帯の増加を目指す」については、33 人減少しています。

次に、「保育所入所待機児童の解消を目指す」については、15 人の増加となっています。

参考として、0 歳から 5 歳児の人数、保育園の申込者数を記載いたしました。0 歳から 5 歳児の人数は昨年度比 37 人の減少となり、全体として減少傾向にあるものの、「保育園申込者数」については依然として高い値で推移しており、申込み過多の状況となっています。このことは、共働きの世帯で子育て期においても働く母親が増えてきているとの見方もでき、目標数値の達成に向けて、引き続き仕事と子育てが両立できる環境を整える必要があると言えます。

最後に、「学童クラブ入所待機児童の解消を目指す」については、3 月末現在、待機者 0 人となっており、目標を達成しております。

次に、基本目標４．「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」についてです。数値目標は、「転出者数の減少、転入者数の増加を目指す」と掲げています。昭島の特徴である住環境のよさを売りにした住宅都市としての魅力を高めていこうという取組に基づく目標となっています。目標は転出者数の減少、転入者の増加を目指すというもので、平成 26 年度以降については転入者数が転出者数を上回る状況が続いています。人口ビジョンの分析でも自然増減は他市並みですが、社会増減において転入超過傾向が続いていることは、昭島市の強みであります。今後、立川基地跡地の開発等進むと転入者数の増加が見込まれますが、転入者に住み続けたいと思われる施策を展開する必要があると考えております。

以上が、「令和元年度総合戦略の基本目標における数値目標の達成度」についての説明となります。よろしくお願いいたします。

委員長・・・ ありがとうございます。まずは、大きな数値目標、昭島市全体の大きな傾向というものを、一つの大きな目標を市として設定してしまして、毎回議論になりますが、総合戦略や市の施策の影響で、こうなったかというところは、中々検証できない部分ではありますが、昭島市がどう変わってきたのか、変わってないのかの指標にはなるのかと思いますので、数字を見ていただき、皆さんから質問や感じたことなどをお知らせいただければと思います。

雇用の部分については、国勢調査を使っている関係で数字が少し古く、あまり今の状況がわからないという部分ではありますが、有効求人倍率が出ているので、こちらについては大塚委員にお聞きしたいのですが、前回集まったのが10月ですので、その後、雇用の状況ですとかコロナの影響もあり、どのような状況なのかを教えていただければと思います。

大塚委員・・・ 2020年が最新の数字になりますが、オレンジ色の1.13という数字が全国の有効求人倍率となっています。これについては、今現在最新の統計でいくと、2021年の1月になるかと思いますが、1.13という数字とあまり変わっていません。やはり求人倍率については、あまり伸びがないという状況になっています。右側の1.43という数字もあまり大きな差はないです。求人の状況に関して言うと、やはりコロナ禍の影響がありまして、求人も出し渋っているというような状況がみられます。この状況が、この後どうなるかというのは、コロナの状況がまだ何とも言えないので、しばらくはこのような感じでいってしまうのかなというのが、今のところ現在の状況でございます。

委員長・・・ ありがとうございます。何かお気づきの点はございますか。

水野委員・・・ 大塚副委員長にお尋ねしますが、このデータは、国と東京都との関係性、また立川管内や多摩地域になると、かなりこの数字が落ちてくるような認識をしていますが、そのあたりはどうなのでしょう。

大塚委員・・・ 立川管内で言うと、このオレンジ色の有効求人倍率の数字はもう少し下がっています。1.11～1.12の間になります。飲食関係、宿泊関係、その他それに付随する小売業など、その辺の求人が停滞というのがあり、逆に、求職者の方々が徐々に増えてきています。新年度の4月以降になると、もっと増えてくるのかなと思

います。4月は異動の時期でありますので、当然そのような傾向になってきますが、そうすると求人倍率が落ちてくる状況になるのではないかなと危惧しております。

委員長・・・ 中小企業の製造業というか、雇用の環境というのはどうなのでしょう。

水野委員・・・ 先日、多摩ものづくり人材確保支援協議会という会議がありまして、また、今日は当会の理事会が開催され、工業部会長とお話をさせていただきましたが、昭島は航空産業の部品を扱っている事業者が結構多いです。製造業は他の商業と比べると、さほど影響はないかなと思っていましたが、航空機関連事業が停滞している中で、そういった下請けしている市内の事業者は、かなり打撃を受けています。一部に、コロナ禍でも元気に頑張っている事業者もいますが、今日は航空機関連の話が結構ありました。あと、外国から鉄が入ってこないということで、他の商工会の皆さんとお話した時に、そういった声が昭島だけでなく、よそでも生じているため、部品が製造できないという状況にあると伺っています。

委員長・・・ ありがとうございます。北原委員にお聞きしたいのですが、中小企業の業績とか、金融機関としてはお金の部分ですとか、そのあたりはどうですか。

北原委員・・・ 定期的に中小企業のお客さんから状況をヒアリングしていきまして、全業種でマイナス数値になっているという集計がでています。ただ、国の支援策の中で、資金繰りのところに関しての支援というのはだいぶ手厚くなっています。東京商工リサーチさんとか倒産数など出していますが、そのあたりの数字は、過去最低と言いますか、まだ倒産には至っていない企業はまだ多く、延命をされているような形になっているので、既存のビジネスモデルだけだと先行き難しい部分があり、国としては業態転換を促すような支援策もここで始まったりしているので、そのような相談が増えているというのが印象です。

委員長・・・ ある意味、支援で延命させるのも限界があるので、それがいつまでなのか、またそれで大きな変化が起こりそうな気がします。コロナによって、全然状況が変わってきているので、まだ読めないところがあるかと思いますが、他の部分ではどうでしょうか。

先ほど事務局から説明がありましたが、待機児童者数の増加の部分はどう読んだら良いのでしょうか。働く女性が増えてきているとかが要因なののでしょうか。

事務局・・・ 待機児童の関係ですが、令和元年度で27人ということで少し増えていますが、これまで施設整備等を行う中で、入所者数を増やす中で待機児童の解消に努めているところでございます。これまでも、ご指摘をいただいているところでありますが、施設整備等を行う中で、一定数増やすわけですが、待機児童数という意味では中々ゼロには至っておりません。どうしても、一定の保育需要は出ている状況であり、増やすとある程度、希望される方が増えてくるという状況がずっと続いています。ここに記載はありませんが、令和2年度部分におきましては、やや下がっており、根本的な解消には至っていませんが、立川基地跡地に新たな認定こども園の開設ですとか、既存の保育園の改修工事を行い入所者数を増やす中で、解消に努めていきたいと考えております。入所の希望の件につきましては、雇用

との関係が出てきますので、今後注視をする中で見ていかなければならない課題として捉えております。

委員長・・・ありがとうございます。そういった意味では、転入者は増え続けているのは明るい話題だと思いますし、それに合わせるような形でこのような子育て世代が増えたりしますので、そのあたりは連動するのではないかと思います。他に何かございますか。

齋藤委員・・・基本目標1から4まで、雇用1の部分は状況がもちろん今の状況ではないので、わからないということと、計画を作られた時と現状があまりにも違うので、今までどうだったというよりは、どうしていくのかを市として考えていくのが良いのかなと思います。次の事業をどうしていくか、優良な企業を守り雇用を保つために、市として何ができるのかを改めて見直していただくのがいいのかなと思います。今から先のところを見てみると、情勢繰り返しているなので、その時々に応じて対応はされてきたというのはあるかと思いますが、それが中々ゼロという感じにはならないのは、何年か後をみると、仕方ないというのは感じていて、その時々需要に合ったサービスを提供できるように、都度対応をしていただけると良いのではないのかなという印象です。

委員長・・・数値の変化だけをみて、何かを見て決めるというレベル感では今はないような気がします。そういった意味では、コロナでだいぶ我々の生活パターンから、産業の構造自体が変わらざるを得ないみたいなどころがあるので、根本的な変化みたいなものをこのような計画にどのように反映させていくのかと思いますが、このあたりは総合基本計画もあるかと思いますが、市のお考えとしてはどうでしょうか。

事務局・・・まず、齋藤委員が仰ったとおり、計画を作った時と状況は変わってますし、今後もおそらく相当早いスピードで色々なことが変わってくるのではないかと捉えております。そうした中で、それぞれの状況に応じて、今後、本日につきましてはこれまでの取組状況に応じて報告をさせていただいていますが、こんな事業を参考にいただきつつ、現在の状況を踏まえたら、どのような事業が必要になるのか、今後みなさんにも色々ご指示いただく中で、次期の計画に取り込んでいきたいと思っております。また、委員長が仰った通り、今、次期総合基本計画の策定も行っていますので、こちらの計画においては、市の全庁的な取組について掲載をさせていただいている形になっておりますので、それを踏まえつつ、次期総合戦略で必要な施策について、具体的にまたご議論いただければ大変ありがたいと思います。

委員長・・・ありがとうございます。例えば、佐藤委員は一年含めて、みなさん結構状況が変わってきていると思うのですが、昭島の暮らしでこのへんが変わったなとか、何か影響出ているなとか、何かありますか。

佐藤委員・・・私は小さいスタジオを3つ程度やっています。昭島のお子さんを100人位預かっていますが、よくお母さんの声を聴ける、身近に声を聴けるとというのが会社のポイントで、私の会社は、モリタウンさん側にある昭和飛行機などの大きな会社で

はないですが、地域の人がみんな助けてくれて、1人も退会者がいなくて、継続できています。最近お話を聞いたのが、多摩川の方にお洒落な団地ができたという話を聞いて、外から、昭島は沢山人が来るんだよと、私も詳しくは知らないのですが、そんなことがコロナの中でもあったので、団地に人が増えてきて、イケアかなんかの家具を使った家が今噂になっていて、見に行こうとか地元の人しか知らないよねとか。

委員長・・・それはご存知ですか。

勝見委員・・・団地というか、住宅街を作ったのですね、田中小学校あたりで。結構な戸数を新築で建てたので、若年層のお父さんお母さんとか結構いますね。

委員長・・・それは、どこが開発したのでしょうかね。

佐藤委員・・・そこまではわからないのですが、地元でも噂になっていて、見に行きたいねとか、もっとそういうのが沢山建ったら、外からみんな人が集まってくるし、そんな気軽なのがあったら、小さいお子さんとか入りやすいのにとというのは、昭島駅南口商店街の理事の皆さんと話をしています

委員長・・・小さな変化かもしれませんが、そういうことが人を呼び込む、きっかけになりますよね。

樽松委員・・・基本目標1に対しての数値目標がありますが、平成22年と27年を比べると、昭島市に住んでいて、昭島市で働いている人が832人減っています。昭島市に住んでいて、働いている人は2,300人程減っています。大雑把に言いますと、40歳以下の人が減っていると、40歳以上が増えているというのは、ある意味では非常に危険な状況ですということを言っているのでしょうか。推測ですが、22年より27年の方が、昭島市の人口が増えていると思うのですよね。そういう状況で、一番働き盛りの人が減っているというのは、非常に危険な状況にありますということが読み取れるのでしょうか。

大塚委員・・・そこが難しいところで、平成27年ではだいぶ前になりますからね

委員長・・・今回の国勢調査は入ってないですね。そこが、おそらく次回くらいまでには、少しデータが出てくるかもしれないですが、これを見て何か判断をするには難しいデータにはなっているのかなと思います。現実的には、このあたりの数字は増えているのでしょうかね。まだ、正確な数字はわからないと思いますが。

事務局・・・令和2年に最新の国勢調査を実施しておりますが、通常事業者数や産業分類等の数値が、おそらく早く令和4年くらいかなと、令和3年度に人口の部分の先行して集計を出しますので、そのくらいではないかなと思っております。先ほど、有効求人倍率の話がでてございましたが、コロナの前の部分で言うと、一定程度の事業数については、27年と比較しても、ある程度の数字は出ているのではないかなと受け止めてはいるところでございます。

事務局・・・ 国調人口とは別に、住基人口で 22 年と 27 年比較すると生産年齢人口 15 歳から 64 歳の人口が、割合でいうと 3.7 ポイントの減少となっています。人口自体は 11 万 3,000 人をキープしていて、やや増加傾向で推移はしているものの、高齢化が進み、生産年齢人口が少なくなったというところも読み取れるかなと思います。

委員長・・・ そういった意味では、危惧というのは少し当てはまっているのかもしれないですね。人口が増えたとしても、全体の割合としては高齢化が進んでいるところで、子どもも少し減っていると言えるのかもしれない。

大塚委員・・・ ハローワークに求職の申込に来られる方の高齢者の割合が非常に高くなっています。60 歳を越えられて、65 歳までの定年というように会社がそのようにする状況がありますが、65 歳を越えられて当然まだまだ元気なので働きたいという方々が非常に多く、70 歳を越えられて、まだどこか働き口がないのとか、という状況で求職の相談に来る方が、非常に多くいます。逆に、若い 20 代の方がハローワークというところには、中々足を運んでいただけてないという状況に現在なっています

委員長・・・ 60 歳以上の方へのお仕事は増えているのでしょうか。

大塚委員・・・ 職種によっては求人倍率の高いところもありますので、一般的に言うと警備の仕事とか、駐車場の管理だとかマンションの管理だとか、そういったところの求人は非常に多くなってきています。

委員長・・・ そのあたりのマッチングの問題はあるかと思いますが。そういう意味では、住みやすさや、まちが活性化しているという指標となる数字自体が変わっていく可能性はありますよね。安定した雇用や子育てのしやすさみたいなことを中心に置いています。指標自体変わるかもしれませんが、そのような意味ではこの数値だけを見て何か判断するというのは、非常に危険な気がしますね。皆さんの肌感覚の状況というのをある程度反映させながら、総合戦略を作っていくかないと、形だけになってしまう可能性があるの、そのあたりの情報をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、ここの資料 1 に書かれている数値の達成度についてはよろしいでしょうか。

(2) 令和元年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価について

委員長・・・ それでは、次の議題の令和元年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価について、事務局より説明をお願いします。

事務局・・・ それでは続きまして、令和元年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価について、資料 2 の総合戦略における具体的な施策の進捗状況一覧に沿って説明をさせていただきます。なお、事業数が多いことから、ここでは各目標・施策の中から一部を取上げて報告をさせていただきます。

それでは、基本目標 1 「安定した雇用を創出する」のうち、1 ページ目の 6 番産業まつりについてご説明申し上げます。こちらの事業では、同日開催していた

フードグランプリが平成 30 年度をもって終了しましたが、代わりに昭島への誇りの詰まった逸品商品・製品・サービスの宣伝となるイベントを実施しました。こちらのイベントでは、フードグランプリで過去に受賞した店舗による特別ブースや、アキシマクジラ関連の特設ブース、昭島青年経営者クラブによる昭島らーめんの試食等を行いました。来場者数については、前回よりも 2,000 人多い 8 万人もの来場者があり、市内事業者と市民との交流を図ることができました。

次に、8 番事業承継でございます。こちらの事業では、金融機関等と連携し事業承継のセミナーを開催するものですが、昭島市単独での実施については、周知や集客に課題があり、中々成立しづらい事業であります。そのため、商工会連合会や協定を締結している多摩信用金庫との連携を模索しましたが、令和元年度については、事業の実施に至りませんでした。今後は、引き続き関係団体との連携を図りながら、事業実施に向けて検討を進めてまいります。

次に、11 番まちのにぎわい再創出でございます。こちらの事業では、地方創生による補助金を活用した 5 か年計画の事業として開始し、令和元年度をもちまして事業終了となりました。創業支援事業での継続的な相談や支援により、これまでに 13 件、新規に出店をすることができました。今後、本事業における評価検証を行いながら、次の事業展開としては、次期総合戦略の中において施策の検討をしてきたいと考えておりますので、また改めて委員の皆様にはご意見を伺いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に、14 番青梅線沿線地域産業クラスター協議会事業でございます。こちらの事業については、平成 27 年度より財源の確保が難しく、小規模な開催方法で事業を実施しています。令和元年度は、都立多摩職業能力開発センターと共催し、地域就職面接会を開催することで、同開発センター生徒の参加もあったことから、参加者も前年より上回り、目標値を達成することができました。

次に、2 ページの 16 番認定農業者支援でございます。こちらの事業では、農業経営における 5 か年の農業計画を立てて、認定農業者に認定されると、農業用器具や資材の購入費の支援を受けることが可能となります。都市農業が衰退していく中で、農業経営者からも好評を受けており、農業支援は必要な事業であることから、今後も継続して事業の実施を続けてまいります。

続きまして、基本目標 2 「昭島へ新しいひとの流れをつくる」に移ります。20 番アキシマエンス（教育福祉総合センター）整備でございます。こちらの事業につきましては、当初の K P I は令和元年度に竣工しており、令和 2 年 3 月 28 日に開館しました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため 3 月 28 日から 6 月 8 日までは休館となっており、6 月 9 日より再開館をしました。このように休館期間はありましたが、令和 2 年度における来館者は、2 月末時点では約 26 万人となっていることから、順調に人の流れを呼び込んでいると捉えております。

次に、24 番観光まちづくり協会との連携・支援でございます。こちらの事業では、観光案内所の利用者数については、3 年ぶりに目標値を達成しました。マンホールカードの配布の他、立川バスのシルバーパスの発行などの業務委託を受けるなど、利用者増に向けての取組ができたと考えます。引き続き、改札出口付近の案内版での誘導や、駅のホームから見える案内所裏側による P R 活動を継続しながら、様々なイベントの実施など魅力ある案内所の運営に努めてまいります。

次に、3 ページの 30 番あきしまの文化財ガイド等市史料の刊行事業についてでございます。こちらの事業では、平成 29 年度に 1,000 冊刊行した「あきしま

の歴史散歩」が順調な売れ行きで完売しました。また、令和元年度では、新たに「昭島市近代史 報告書Ⅶ 陸軍航空 工廠と昭島」の史料を刊行し、新規の史料を含めて、順調に売れたことが、数字に結びついた結果と考えております。

次に、37 番昭島ブランド構築・推進でございます。こちらの事業については、すぐに連携できそうな商品開発が一段落したため K P I は達成できませんでした。これまで5年間で 51 件の商品開発が行われ、開発商品がふるさと納税の返礼品に搭載されるなど、継続してロゴマークがついた商品の販売活動を行うことにより、ロゴマークの認知など一定の効果があったものと捉えています。商品開発件数は落ちていますが、今年度は、冊子『夢つなぎ人 (第5版)』の発行や、あきしまの水をテーマとした「動画コンテスト」を開催しており、このように視点を変えた事業展開を行ないながら、あきしまの水ブランドの P R や魅力の発信について、今後も努めていきたいと考えております。

次に、41 番ふるさと納税の充実でございます。こちらの事業では、前回 K P I を再考し、変更をしましたが、目標を大きく上回る結果となりました。民間企業のふるさと納税サイトを利用し、返礼品を段階的に拡充することに加え、雑誌やテレビ等での P R 等による露出を増やしたためと考えられます。さらに、蒸気機関車の改修ためのクラウドファンディングを新たに開始し、市内外問わず多くの寄附があったことから、総合的に市の特徴的な事業や市内企業の P R に繋がったと考えております。

続きまして、基本目標 3 「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」に移ります。

4 ページの 48 番多子世帯保育所等利用負担軽減補助でございます。こちらの事業については、平成 29 年度より K P I の見直しを行い、ここで初めて達成となりました。理由としましては、令和元年 10 月からはじまった幼児教育・幼児保育の無償化の影響により、保育施設、幼稚園の利用が増加していることから、待機児童も増加していることが考えられます。一時預かりや病後児保育の利用者負担が軽減されることは、利用者の増加に繋がると考えられるため、引き続き事業の実施、周知に向けて努めてまいります。

次に、5 ページの 60 番休日保育でございます。こちらの事業については、近年、保護者の就労形態の多様化などにより利用者は増加傾向となっており、目標値は達成できています。ニーズが多く予約が 100%である一方で、キャンセルも多く、真に必要な方が利用できないことが課題であります。今後は、予約キャンセル時にも対応できる運用方法などについて、検討をしていきたいと考えております。

次に、6 ページの 70 番昭島市リーダーズクラブの育成でございます。こちらの事業については、小学生リーダー講習会の参加者数については、今年は3地区が実施できなかったことから、参加者数が大幅に減少しました。要因としては、講習会の実施にあたり、地域の指導者を確保できなかったことや、地域で実施に向けた協議が進まなかったことなど、地域ごとに課題が生じており中々まとまらない状況でありました。今後は、事業の実施方法を含め、引き続き、各小学校地区委員会と連携しながら検討をしていきたいと考えております。

続きまして、基本目標 4 「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」に移ります。

7 ページの 75 番雨水浸透施設設置費用の助成でございます。こちらの事業では、敷地に雨水浸透施設を設置する個人等に対して、その費用の一部を助成し、

設置を促進することで、雨水浸水被害の防止や、あきしまの宝としております地下水資源の保全に資することを目的としています。平成 30 年度に要綱の改正を行い、新築住宅でも助成可能とした以降は、設置数は増加傾向であります。目標達成に至っていないため、引き続き事業の積極的な周知を図っていきます。

次に、81 番要配慮者避難支援プランの作成でございます。こちらの事業については、平成 31 年 2 月に全体計画である避難支援プランを策定し、本計画について、情報伝達体制の整備や避難所における支援方法などの項目内容の充実を図り、令和 2 年 3 月に改正を行いました。また、新たな避難支援等関係者として、昭島消防署、昭島市消防団及び昭島警察署と覚書を締結し、3,686 名の名簿の提供を行いました。個別支援プランについては、引き続き策定に向けた検討を進めていきたいと考えております。

次に、8 ページの 89 番認知症サポーター養成講座でございます。こちらの事業については、認知症を正しく理解し、認知症の方やその家族などを、地域で見守る認知症サポーターを養成していきます。令和元年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和 2 年 2 月下旬から講座の開催を中止しましたが、601 名の方がサポーターとして誕生いたしました。高齢化が進む中で、認知症サポーターの役割は大きいと、引き続き、事業実施に向けて取組を進めてまいります。

最後に、95 番コンビニ交付事業でございます。こちらの事業については、ポスターやチラシなどで事業の利便性を伝えたことに加え、窓口や電話対応時において案内の強化を図り、啓発に努めたことで実績は年々増加しています。令和元年度より K P I の修正を図り、目標値を大幅に変更しましたが、目標値は達成できております。引き続き、住民票や印鑑証明書等のコンビニ交付枚数の維持・増加に向けて、本事業の周知やマイナンバーカードの普及を図ることで、利用者を増やしていきたいと考えております。

以上が、令和元年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価についての説明・報告となります。よろしくお願いいたします。

委員長・・・ ありがとうございます。かなりの数の事業がありまして、その中でピックアップして説明をいただきましたが、今説明のあった事業でなくても構いませんが、皆さんの方で気になる点とか質問、ご意見など、このデータは 2019 年度の事業のことですので、イベント関係においては今年度では状況が違うと思いますし、今となっては人数だけ集めれば良いというのが難しくなっているという状況がありますが、2019 年の事業状況をみていただいて、ご意見いただければと思います。

齋藤委員・・・ イベントの件についてですが、どのイベントに対しても来場者数の目標に対して、達成してきているというのは良いことだと思うのですが、仰られたとおり状況が変わっているので、来年度以降は、この項目を新施策という形でその方向性を決めていかなければならないと思います。

委員長・・・ そうですね、K P I の設定もありますし、評価をどうしていったらいいか、現時点で市として何か考えはありますか。

事務局・・・ イベント関係の質問ですが、先ほど委員長からお話をいただいたとおり、令和

2年度は、殆どイベントの開催を見送ってきている状況でございます。令和3年度につきましても、予算計上をここで行い、議会で審議をいただきましたので、その中で既にこの状況を踏まえて、令和3年度についても見送る方向のもでございますし、一部状況を見ながら場合によっては開催をしたいと考えておりますし、今後のコロナの状況を見定めながら、決めていきたいという事業もございます。今後の部分ですが、基本的には市が実施する事業というのは、集計部分含めて大変重要だとは思いますが、感染対策というのは今後継続して実施していかなければならないと思いますので、そのあたりの状況を踏まえながら、市としてイベントをどうやっていくのかは、令和3年度全庁的に検討をしていかなければならないと思っています。現時点で、具体的にこういう方向でいきますというところまでは至っていないです。

齋藤委員・・・ 4月には、桜のイベントをやる市が結構あると思いますが、武蔵村山や国立では、オンラインでやるというところが出てきていて、昭島市でもそのような取組をするようなことがでてくるのではないかなと思うのですが、来場者ではなくて、アクセス数とかになってくるのですが、単にそれだけで計ると言うよりは、例えばそこにアクセスした人が、「この動画見てね、このサイトに行ってね」とか、SNSで発信するとか、そういったハッシュタグ検索で、これで引かなかったヒット数とか、そういう形で来年度以降やっていかないと、計れないのではないのかなと思うので、どのように考えているのかを伺いたいですね。

事務局・・・ SNSの発信とかの話がありましたので、この状況を踏まえて市として積極的にSNS等を活用して、情報発信をしていくべきではないかという議論がされている状況でございます。そうした視点を踏まえて、今後色々な媒体を活用する中で、市としても発信をしていきたいという方向性を持っています。そのようなことを含めて、どんな形で指標を設定して、検証をしていくのがいいのかというのを検討していきたいと考えております

委員長・・・ 昭島だけではないのですよね。北原委員はご存知かもしれませんが、自治体のイベントのやり方がオンラインとか、変わってきてるのではないかなと思うのですが、いかがですか。

北原委員・・・ イベント情報を集めて、毎月広報誌を発行してるのですが、中々自治体のイベント情報が集まらなかったりとか、ギリギリまでやる、やらないの判断ができなかったりとか、中々情報が集まらない状況です。創業とかの話になってしまうのですが、自治体の窓口がコロナ禍の状態なので止まってしまったので、オンラインとしては比較的数字は多く来たのかなと思います。

委員長・・・ 齋藤委員が仰ったように、評価基準というか、とりあえず集まってくれてたら、それなりに成果だねと言えていたのが、人を集められないので、成果をどこで判断するのということもあるでしょうし、成果そのものの質というのは、変わってくるということですよ。来た人とか、参加した人がさらにそれを発信してくれるとか、そういうところではじめて意味があると判断をするようになるのかもしれませんね。

齋藤委員・・・ 昭島市がそのあたりが少し弱いと思いますが、発信のところで 43 番の新たな広報活動の部分で、フォロワー数が増えています、もう少し伸ばせる方法を考えられるのかなと。動画チャンネルを拝見しましたが、再生回数が少ないので、もっと見てもらうようにしないと、イベントをオンラインで開催したとしても、それを見に来てくれる人が増えないという問題にも繋がってしまうのではないかと思います。

事務局・・・ これまでも、取組状況を報告する中で、各委員さんからご指摘をいただいております、広報活動の部分は市としても取組があるのではないかとこのお話をいただいております。確かにそのような課題があるという認識をしている中で、これまではホームページを中心として、記載のとおりツイッターを活用して情報を発信していますが、今後はそれ以外の媒体を活用する中で、このような取組を強化していかなければならないと市として考えています。

齋藤委員・・・ 努力はされているような印象は持っていて、動画数もいっぱい上がっているのですが、再生数が数百くらいなんですね。おそらく、見ている人が同じ人なのかという感じがしていて、広がるのが中々難しいのかなと感じたので、何か施策をとられるのが良いのだと思いました。昭島市では、プロモーションビデオが動画の中に入っていて、3 年くらい前にアップしたもので、7,500 回位再生されています。立川市が 1 か月程前にプロモーションビデオを作成してアップされたものが、1 か月位で 7,000 回程再生されているので、再生されるよう工夫をしていく必要があるのではないかなと思いました。

委員長・・・ そのあたりは、自治体が苦手な部分があるようにも思えますが、自治体だけでなく、市民が主体になってそのようなことができたらいいなと思いますね。

齋藤委員・・・ 皆さんで、ここを見るとか、ここで繋がるとか、実際に会えなくてもオンラインで出来るようなものが出来てくるといいなと思いました。

委員長・・・ 情報発信の話になりましたが、他にはいかがでしょうか。

樽松委員・・・ 3 番について、実績は 9 社、まち歩き事業は 12 回の実施となっていますが、この部分はということでしょうか。また、8 番、9 番が実績がゼロになっていますが、普通にやっても半分くらいはできたのではないのかなという気はしますが、そのあたりはどうなのでしょう。

委員長・・・ まず一つ目の、企業の見学ツアーの数字の意味というのは、おわかりになりますか。

事務局・・・ 企業見学部分については、事業の実施回数としては 12 回しています。実績については、事業者の数字を入れていますので、一つの事業所で複数回行ったことがありますので、12 回のうち実際に行った事業所としては、9 社という数字となっております。

委員長・・・ 回数ではなく、社数を目標値にしているのは、協力してくれる企業が増えてほ

しいということで行っている。本来であれば、12回まち歩きをおこなっているなら、12回全部違う会社でできたらベストなのですが、今回は9社だったということです。また、事業承継等の件ですが、ここは中々難しかったということでしょうか。

事務局・・・ 記載のとおり、市単独では、中々難しい状況にあるところで、商工会さんや多摩信さんと連携をする中で、開催をするという流れではありますが、令和元年度においては、その部分がうまくまとまらず、実施そのものができなかったため数値はゼロとなっています。

水野委員・・・ 本年度におきましては、他の行政さんと連携した取組を推進しようと。そのためには、福生の商工会と昭島の商工会、そしてそれぞれの行政さんが加わります。まず、東京都商工会連合会には事業承継の専門部署がありまして、連合会は、令和3年度の基本計画の最重要課題として、事業承継をあげているわけです。連合会とそれをやっているのに、昭島市の取組をどう連携させるか、というのが今難儀しているところですが、昭島市のご担当のご尽力によって、一歩ずつ前に踏み出しているものと理解しています。色々なところで、事業承継、つまり高齢化で事業継続できない、後継者がいなくて事業継続ができないという問題を、立川商工会議所の中に大きな部署がありますが、そのような様々な部署が連携して取り組んでいきます。令和2年度は、もう一歩踏み出したものと理解しています。

委員長・・・ ニーズは当然あるわけですね。ただ、どのようにやっていくかというところで、どういう組み方がいいかそういうところで、ようやく動き始めているという認識で良いのでしょうかね。事業承継は、確かにニーズはありますが、中々セミナーに呼んでくるというのは、難しい。やめる側が、そのセミナーに参加するとか、心情的に問題があったりとか、そういう意識もあることから、中々自分たちが対象だとか感じられない分野とかあり、どこも集客は難しいですね。

北原委員・・・ 個別の相談の中で解決をしていくものの方が多い、一社一社課題も違うし、対応も違います。

水野委員・・・ そういう意味では、そのような取組が実を結んで、多摩信さんにも繋げていくという途中段階なんですね。

委員長・・・ はい、ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

石川委員・・・ ふるさと納税の充実についてですが、さとふるの画面で昭島市がずっと受付期間外となっていて気になっているのですが、どうしてでしょうか。

事務局・・・ 年度末に寄附があった場合に、会計処理上不都合が生じる恐れがあるため、一旦受付を停止させてもらっています。年度が切り替わった4月以降に、受付を再開する予定となっています。

石川委員・・・ 他市も同じような状況でやっているのに、他市はちゃんとできているということですか。

事務局・・・ いくつか掲載について選択肢があるのですが、さとふるさんとのやり取りの中で、昭島市としては会計年度を跨ぐ都合上、今年度については一旦掲載を止めている状況です。

石川委員・・・ アキシマエンシスにアキシマサクラという桜が咲いていて、調べても何もでてこないのですが、アキシマサクラというのは、新しくできた桜なのでしょうか。

事務局・・・ いくつか桜の種類があり、市外でも造園業組合さんが植えたりしていますが、本来は昭島で育てられたものが、アキシマサクラというらしいです。特徴的には枝が縦の方に伸びたりする違いはあるらしいです。

石川委員・・・ 昭島ブランドとして素敵なものなのに、何もここに出てこないのは、どうしてかと思ひまして質問をさせていただきました。

委員長・・・ 情報発信という意味では、もう少しできそうですよね。その他何かありますでしょうか。

勝見委員・・・ 70番昭島市リーダーズクラブの育成について。3地区が未実施ということもあるのですが、かなり下がっている。3地区だけでこれだけ下がるわけないと思っているので、だいぶ子どもたちが受ける講習もなくなってきたのか。それを掘り起こすことも併せて考えていかなければならないのかなと。それと、中学生にあがる時の連携、切れ目ない繋がりができていない感じがするので、学校の教育も必要だとは思いますが、これについては指導者も含めて他市との協力とか色々なバリエーションを考えていただきながら、さらに広がりを作っていただきたいと思います。それと37番の昭島ブランド推進ですが、動画コンテストの再生回数が低くて、平均50回とかなので、市の職員の方にもみていただいて、広めていただく活動をしていただければと思いますので、併せてお願いいたします。

委員長・・・ 先ほど事業承継でもありましたが、他市との連携みたいなのがありました、そういうのは結構ウェルカムなのですか。

勝見委員・・・ そうだと思いますが、東京都とかでも色々な区と市の交流とかあるので、やろうと思えばやれるものだと思います。ただ、このような状況なので、このような講習は対面ではないと厳しいところもあるので、そのやり方も一度検討していただければと思います。

委員長・・・ 市の方でこのあたりの情報は何かありますか。

事務局・・・ これまでにも、このようなことについてのお話はご指摘をいただいておりますが、記載上は3地区が実施できていないというのが、一つの原因ではありますが、委員の仰るとおり、これまでの状況を踏まえますと、参加者数が全体的に停滞傾向にあるのかなと受けとめています。そうした中で、今ご提案をいただいた内容を含めて、どんな形で参加者を増やしていけるのか、またコロナを踏まえた中でこういった形で対応することができるのかというのを、引き続き担当課と協議を

しながら進めて行けたらなと思っております。

委員長・・・ ありがとうございます。その他何かありますでしょうか。

佐藤委員・・・ SNSの発信ですが、もしよければ、私は昭島駅南口商店街の理事ですが、商店街とかに言っていただければ、昭島では100程の団体がありまして、そこからの情報発信でできると思うので、そういった商店街の理事達を呼んで、市の方から呼びかけていただけたら、こんなに95も素晴らしい企画をやっているなんて、逆に発信できると思うので、お気軽に声をかけてください。

委員長・・・ それこそ佐藤委員が仰いましたが、こじんまりとした、お互い顔が見えて、お互いを支え合うことができるまち、ということは強みですよ。情報発信は、たぶん市がやるよりも民間がやったほうがいいと思いますね。

齋藤委員・・・ 立川のプロモーションビデオの立川市のツイートを立川の商店街がリツイートしたりしていました。

佐藤委員・・・ 昭島の替え歌動画で映っていたバスが、昭島のバスじゃなかったと地元の人が言っていました。商店街の人に一度チェックしてもらったら、意見とか聞けて間違いのない発信ができるのかなと思います。

事務局・・・ あれは個人で音楽活動をしている人が行ったので、市がチェックするというレベルではないので、その部分は残念でした。

委員長・・・ このような、計画とかそういう動画とか何かでPRしたりとか、市民に伝えたりとか、普通だと当然パブリックコメントとか、説明会とかあるかもしれませんが、動画で表現して、みんなに気軽に見てもらって、意見をもらうとか、逆に今やりやすくなっている部分があると思うのですよね。そのようなところもぜひ進めて行きたいと思いますし、そういったアイデアをどんどんいただけたらと思います。

前提が変わってしまったので、評価しがたいという項目はあるかと思いますが、それを踏まえて次回、令和2年度はどういうものだったのか、またはこの先、新たな総合戦略はどういう方向性を持ったらいいいのかというところが、次回のテーマになるかと思っています。今日出た話も踏まえて、次回もう少し議論ができればと思います。

特別他になれば、この部分については、以上にしたいと思いますがよろしいでしょうか。

4 その他

①第5回昭島市総合戦略策定検討委員会について

委員長・・・ それでは、続きまして、その他の第5回昭島市総合戦略策定検討委員会について、事務局から説明をお願いします。

事務局・・・ 今後の総合戦略検討委員会のスケジュールについてですが、次回以降、本日の内容を踏まえて、策定に向けて各基本目標の事業内容を決めていくことになりま

す。総合戦略は、上位計画の総合基本計画に沿う形で策定していきますが、これから次期総合基本計画の策定作業の中で、分野ごとに事業内容を模索、検討する予定となっております。そのため、総合戦略においては、次期総合基本計画の策定作業により検討を行った事業内容に基づき、総合戦略の策定作業を進めていきたいと考えております。

したがいまして、次回の委員会につきましては、次期総合基本計画の策定作業が進んだ後の8月頃から、委員会を開催することを予定しております。

また日程が決まりましたら、いつものように開催通知等をお送りさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

委員長・・・ ということで、これは前にもご説明があったかも知れませんが、現在は総合基本計画の方の策定をしています、その中に総合戦略というのが位置付けられていますので、総合基本計画の方針、方向性が定まってから、こちらの議論をしましょうということになりますので、時期的にはまだ続くということになりますので、そこから集中的に年内に議論をしていくことになるスケジュールになるかと思っておりますので、またその時にはよろしくお願いいたします。

5 閉会

委員長・・・ 以上で、本日の次第は終了となりましたが、皆さんの方から何かありますでしょうか。特になければ、終了したいと思いますので、以上で、第4回総合戦略策定検討委員会を終了します。ありがとうございました。